

特別支援教室だより

令和7年 11月 吉日
巡回拠点大杉東小学校
特別支援教室通信

【 今回のテーマ 】



昨日できたことが、今日できない子

例：昨日の宿題は丁寧な字で書いたのに、
今日は雑に書いている。



【 こんなことが考えられます 】

「できる子・やれる子」でも、いつでもどこでも「できる・やれる」とは限らない

- ・完璧主義や失敗を恐れる気持ち：そのような気持ちから「やらない方がマシ」と感じてしまい、取り組みなくなってしまうことがあります。
- ・優先順位を決めるのが難しい：何が重要かを判断するのが難しく、やるべきことに集中できないという場合もあります。
- ・環境や体調の影響：睡眠不足やストレス、学校やお家での環境変化、また前日までに頑張ったことで疲れてしまっているなど、その時の環境やコンディションが大人の何倍も子供たちのやる気や成果に影響します。

【 できることはなんでしょう 】

やる気を出すための条件が整っていないと考え、

できる形を一緒に探することが大切

◇具体的な目標を設定し、小さな成功体験を積み重ねる

- ・「1問だけ」「10分だけ」など、達成しやすい具体的な目標を設定し、成功体験をもてるようにする。
- ・達成できたら「～までできたね!」「ここが丁寧に書けているね」など、具体的に褒めることで、自己肯定感を育てる。

◇やることを見える化する

- ・やるべきことをリストやタイマーで可視化し、優先順位をはっきりさせたり、できたことにチェックを入れて達成感をもたせたりする。
- 例：お子さんの目に入る場所に「①宿題→②お風呂→③ゲーム」と書いたボードや紙を張っておく。

◇選択肢を与える

- ・「今やるか、後でやるか(何時から)」「どちらからやるか」など、選択肢から選ばせる。そうすることで「自分で決めたから」という自主的な気持ちをもたせることもできます。

◇共感・肯定的な声をかける

- ・「どうしてもできないの」「早く終わらせなさい」などの否定的な言葉は避け、「今日はちょっと疲れてるのかな」と共感を示したり、「頑張ってるね」「あと少しだね」と肯定的な声かけを意識したりすることが大切です。できていない所ではなく、少しでもできている所や取り組もうとしている姿など、努力や変化を認めていけるとよいです。また、お家の方も一緒に読書や勉強する時間をつくり、学びに向かう環境や空気を作っていくのも一つです。

◇気分転換の時間を設ける

- ・やる気が出ない時は、無理に続けさせるのではなく「5分だけ休憩しよう」等と促す。
- ・好きな音楽やストレッチなど、やる気が出ない時のリフレッシュ方法をお子さんと一緒に探していくのもおすすめです。

本校には5名の巡回指導教員がいます。「特別支援教室」について、ご質問がございましたらご連絡ください。
また、本校のホームページに「特別支援教室だより」を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページのQRコードはこちら

